

第二種特定鳥獣管理計画（第5期ニホンジカ管理）（素案）にお寄せいただいた
御意見及び県の考え方

- 県民意見の募集期間：令和2年12月28日（月）から令和3年1月26日（火）
○ 県民意見の募集：2名（10件）

※計画（案）に反映させて頂いた御意見：2番、8番

番号	記載事項	御意見等	県の考え方（案）
1	P10 自然植生への影響	アメリカのイエローストーン国立公園の事例からも、ニホンジカの異常繁殖の防止が自然環境の回復に必要な事をアピールしていただきたい。	令和元年(2019年)度実施の森林下層植生衰退度調査においても、高密度の管理ユニットでは自然植生の衰退が顕著に確認されています。 管理計画を着実に推進することにより、自然環境への影響の軽減を図ってまいります。
2	P33 電気柵の安全管理対策、柵の指針について	電気柵は有効だと思うが、ぜひ危険のあるものと理解され、安くて安全な電気柵の指針作成をお願いしたい。	電気柵について、多くは適切な方法で設置、管理されていると認識しておりますが、一部に高さ不足等の技術的な課題がある事例、漏電の発生等適切な管理が行われていない事例も見られます。 適正な柵の設置や技術指導については、地域振興局に設置している野生鳥獣被害対策チームが助言、支援を行います。 電気柵の感電防止に関する安全対策については、平成28年度農林水産省通知を受け、市町村、農業関係団体等へ周知を行っております。 御意見を踏まえ、電気柵の安全管理に関する記述を計画書に追記します。
3	ジビエカーについて	ジビエの活用はジビエカーの進化で活用が期待できますが、いかに急速に冷却するかが品質を左右すると感じている。現在のガイドラインでは、止めさしから施設への搬入まで1時間以内という“時間”で決められているが、気温との積算温度が重要と感じている。	御指摘のとおり、高品質なジビエ活用には捕獲個体の迅速かつ適切な処理が必要になります。効果的な手法を検討し、実証、普及を図ってまいります。
4	猟友会の連携について	長野県は猟友会が捕獲認定事業に参加しなかった数少ない県であり、連携がうまくいっていない代表県だと感じている。障害は何か。	県内の捕獲に関する体制の整備、担い手の確保は、持続的に鳥獣対策を進める上で大変重要な課題と認識しております。 県、市町村、猟友会、認定鳥獣捕獲等事業者等の鳥獣対策関係者が、捕獲対策の意義や方向性、各関係者の役割・できることなどを共有することが必要と考えております。

			併せて、捕獲従事者を増やすための取組、高度な捕獲技術や知識を有して捕獲対策を企画できる人材の養成を進めることが必要であると考えております。
5	国有林等の連携について	<p>個体数調整事業で山梨県の犬が長野県国有林に入り、逆に原村の犬が富士見を超えて山梨県に入ったことがある。それぞれ山にカギがかかっており、回収に多くの時間と労力が必要となり効率的ではない。連携をお願いしたい。</p>	<p>国有林への入林に関しては、各森林管理署が管理経営上の確認を行うため、所定の手続が必要になっております。</p> <p>近接する地域で個体数調整を実施する場合は、市町村から事前に森林管理署に相談いただき、必要に応じて手続きをお願いいたします。</p>
6	安全管理に係るユニット責任者の選任、捕獲活動のIT化について	<p>高山での捕獲は技術と知識が必要で、体力・技術に対応した人員配置と誰が何処にいるかという把握と次の行動に適切な指示がなければ、必ず事故は起きる。ユニットの責任者の選任をお願いしたい。</p> <p>今後の捕獲の効率化と安全のカギはIT化と思われる。自宅でワナ・檻の作動を確認したり、ドローンにより生息場所を確認したりできれば、人員や機材配置の効率化と安全につながる。高度な通信技術と運用技術者維持管理を行う資金力が求められることから、県は各所に力を貸して、拠点を構築して高度な安全・安心・効率捕獲の先進県への尽力をお願いしたい。</p>	<p>捕獲における事故防止は、各事業者が責任を持って取り組むべきものであり、安全な捕獲作業の実施を呼びかけてまいります。</p> <p>捕獲におけるIT化の推進は、作業負担の軽減・効率化につながることから、地勢や被害の状況に応じて、国交付金等を活用して市町村等で整備を進めるよう情報提供してまいります。</p>
7	数値目標と達成	<p>ニホンジカの捕獲には、罠と檻は捕獲効率が高く、巻き狩りや誘引は多くの人手が必要だが、罠や檻をさけるスレジカには有効と考える。技術差はあるが、捕獲実績からおおよその必要人員や捕獲頭数が想定されることから、参加人数で目標達成の可能性も決まると思われる。実力以上のわな等の設置は点検と回収が行き届かず、高地ではクマを呼び寄せてしまい、異常繁殖の心配もある。</p>	御意見を参考にさせていただきます。
8	重症熱性血小板減少症候群(SFTS)について	<p>ダニが媒介する感染症である重症熱性血小板減少症候群(SFTS)について、長野県でも陽性のニホンジカが確認されたと聞いている。まだ有効な治療方法が見つかっていないとのことで、死亡される方もあり注意が必要と考える。ニホンジカの捕獲がこの様なウイルスから県民の命と健康を守る活動であること</p>	<p>国内でSFTS(重症熱性血小板減少症候群)を始めとしたダニ媒介感染症等が確認されているため、捕獲従事者や狩猟者に感染防止対策を呼びかけてまいります。</p> <p>御意見を踏まえ、計画書に記載します。</p>

		をアピールしたら理解も得られやすいと感じている。	
9	高山の自然回復について	八ヶ岳でハイマツの中を走り回るニホンジカや蓼科山山頂で無数のニホンジカの跡を見かけショックを受けた。関連する農林業の被害に視点がいきがちだが、高山の自然回復に原点回帰して成功することを期待している。	ニホンジカの生息密度の増加は、自然植生に大きな影響を与えることから、高密度生息域で局所的かつ効果的な捕獲を進め、生息密度の低減を図ることにより、高山の自然回復にもつながるものと考えています。
10	鳥獣管理について	ニホンジカのジビエ利用については、寄生虫の問題もあるが、肉自身は癖も臭みも少なく、料理方法によってはおいしいもので、ペットフードとしてもかなりの利用がある。使われていない牧場、放牧地にニホンジカを集め、寄生虫処理、安定した食肉処理、ペットフード加工を行い、残渣処理ではチップ化した下地に植生資材、微細物で分解、堆肥化を進めることにより、循環型環境社会の構築につながると思われる。	県としても、ニホンジカを様々な分野で有効活用することが、持続的な捕獲の推進、新たな地域資源の創出、残渣の減少につながると考えています。国、県、市町村が連携して有効活用に積極的に取り組んでまいります。